

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年 3月 10日

報告者	学科名	現代福祉学科	職名	准教授	氏名	樂木章子
研究課題	過疎地域における地域振興と移住者の定着に関するアクションリサーチ：鳥取県智頭町山形地区の事例					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樂木章子		現代福祉学科・准教授	社会心理学	研究全般および総括
研究実績の概要	分担者					
	<p>本研究では、中山間地域で深刻な人口減少と少子高齢化が急速に進行する鳥取県智頭町において、その解決の糸口となる移住者に着目し、今後の移住者の誘致と定住化に向けた方途を検討するために、その一次資料となる現在の移住者の現状についてのデータを収集し、これを分析した。</p> <p>具体的には、智頭町在住移住者を対象とした全数調査（質問紙調査）、および、一部の移住者へのインタビューを実施し、移住者の智頭町ならびに移住に関する意識や現状を明らかにした。</p> <p>質問紙調査の項目は、智頭町に移住するまでのプロセス、移住後の生活満足度、地元住民や移住者間の人間関係、および、地元住民による智頭町独自の住民自治運動に対する認識等である。質問紙調査に関しては、智頭町役場から全面的な協力を得て、すべての移住者家庭への質問紙配布が可能となった。インタビュー調査は、質問紙を補完する目的で半構造化面接を行った。</p> <p>質問紙調査を集計した結果、移住形態は都会からのIターンがほとんどで、移住に際し、就職先の有無や収入減少、気候への適応や、地元住民とのかかわりに対する不安視した回答が多く見られたものの、実際には、移住生活に満足している世帯がほとんどで、智頭町への愛着を感じており、定住化を検討している移住者が多かった。地元住民との日常的な交流も多く、智頭町独自の住民自治運動の認知度や活動参加も、一般の地元住民よりも高い傾向が見られた。一方で、移住や移住生活に対する要望として、移住支援に関する行政のより積極的な対応、下水道整備や空き家整備・斡旋の充実、移動手手段の脆弱性、ネット環境の向上等が挙げられた。</p> <p>移住者を年代別に見みると、40代の子育て中の家族が最も多く、智頭町を選択した理由として、自然の中での子育て・教育を挙げるものが多かった。具体的には、先住の移住者によって創設されたユニークな教育拠点である「森のようちえん・まるたんぼう」や「サドベリースクール（小学生以上の子どもを対象としたフリースクール）」等に子どもを通園・通学させる目的で移住してきた子育て世帯が多く、この教育拠点が智頭町の移住者の安定的確保を支えていることが明らかになった。このことを鑑み、本研究では移住者による移住者の誘致という希少な事例となった「森のようちえん・まるたんぼう、および、サドベリースクール」とその背景要因となる智頭町の住民自治運動との関連性についても分析した。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績 の概要	なお、本調査結果は役場と共有し、今後の移住者支援の基礎資料として、移住者誘致と定住化のための支援策について、引き続き協議していく予定である。
成果資料目録	樂木章子：森のようちえんを住民自治活動の歴史に位置づける試み. 集団力学, Vol. 39. pp. 3-19, 2022. 11